個別説明会等資料
企画部政策企画課

北上市の大学設置構想について
「大学があるまち」を考える

北上市 KITAKAMI CITY

1．大学設置に向けた動きは前にもあった

➢ 昭和57年～平成17年「北上地域大学設置期成同盟会」

当時、景気は右肩上がりの状況で経済活動が活発化。全国的に大学設置などの投資も盛んとなっており、**当地域においても大学誘致・設置の機運が高まっていた。**しかし、バブル崩壊後、経済は急激に冷え込み、民間の投資意欲は減退。自治体の税収も下降線を辿ることとなった。本会はH13年度の総会を最後に活動休止。H17年度に経済状況や行政を取り巻く情勢の変化を理由に、従来の展開では目的達成は困難であると判断し、解散した。

本同盟会の組織構成および活動内容は次のとおり。

≪組織構成(当時)≫

団体等	職
北上市	市長、議長、副議長、各常任委員長、教育民生常任委員会副委員長、教育委員会教育長
東和町	町長、議長
湯田町	町長、議長
沢内村	町長、議長
関係団体	北上市商工会議所会頭、北上市農業協同組合長、社団法人北上青年会議所理事長、北上市地域婦人団体連絡協議会長、北上市芸術文化協会長
賛同者	前日本大学総合企画室室長

≪活動内容≫

時期	内容
随時	岩手県に対する統一要望
随時	情報収集 ・ 関係機関との情報交換 ・ 国会議員、県議会議員等を交えての懇談会
随時	誘致活動
随時	先進事例（大学）へのアンケート調査
H8	高校生および保護者、高校教師へのアンケート調査
～H12	先進事例の視察調査（由利本荘市、会津大、新潟工科大、富山県立大、長岡造形大、東北芸術工科大）

２．これまでの主な取り組み状況

➢ 北上市における大学設置の検討の経過

1. 北上地域大学設置期成同盟会（昭和57年～平成17年）

昭和57年に「北上地域大学設置期成同盟会」が設立され、大学設置に向けた動きが始まったが、経済状況や行政を取り巻く情勢の変化を理由に、平成17年に解散した。

2. 北上市総合計画2021-2030 アクションプラン

若年層の人口流出や、地域産業を支える人材の育成・確保という課題認識のもと、北上市総合計画2021～2030 の「基本方針２『未来を創る人づくり』」、「基本施策２－２『最適な教育環境の構築』」に関連するアクションプランとして「大学等高等教育機関の設置」を掲げた。

3. 北上市への大学等高等教育機関設置のあり方に関する研究（令和3年度）

北上市近未来政策研究所が、高等教育機関の設置の必要性や設置によって得られる効果、設置目的と制度の動向を踏まえた設置・運営方法など、まちづくりにおける高等教育機関のあり方を調査研究し、併せて大学等高等教育機関設置の前提となる諸条件等の考察を行い、地域の発展のための「次なる一手」として提言を行った。

4. 北上市への大学設置可能性について（令和4年度）

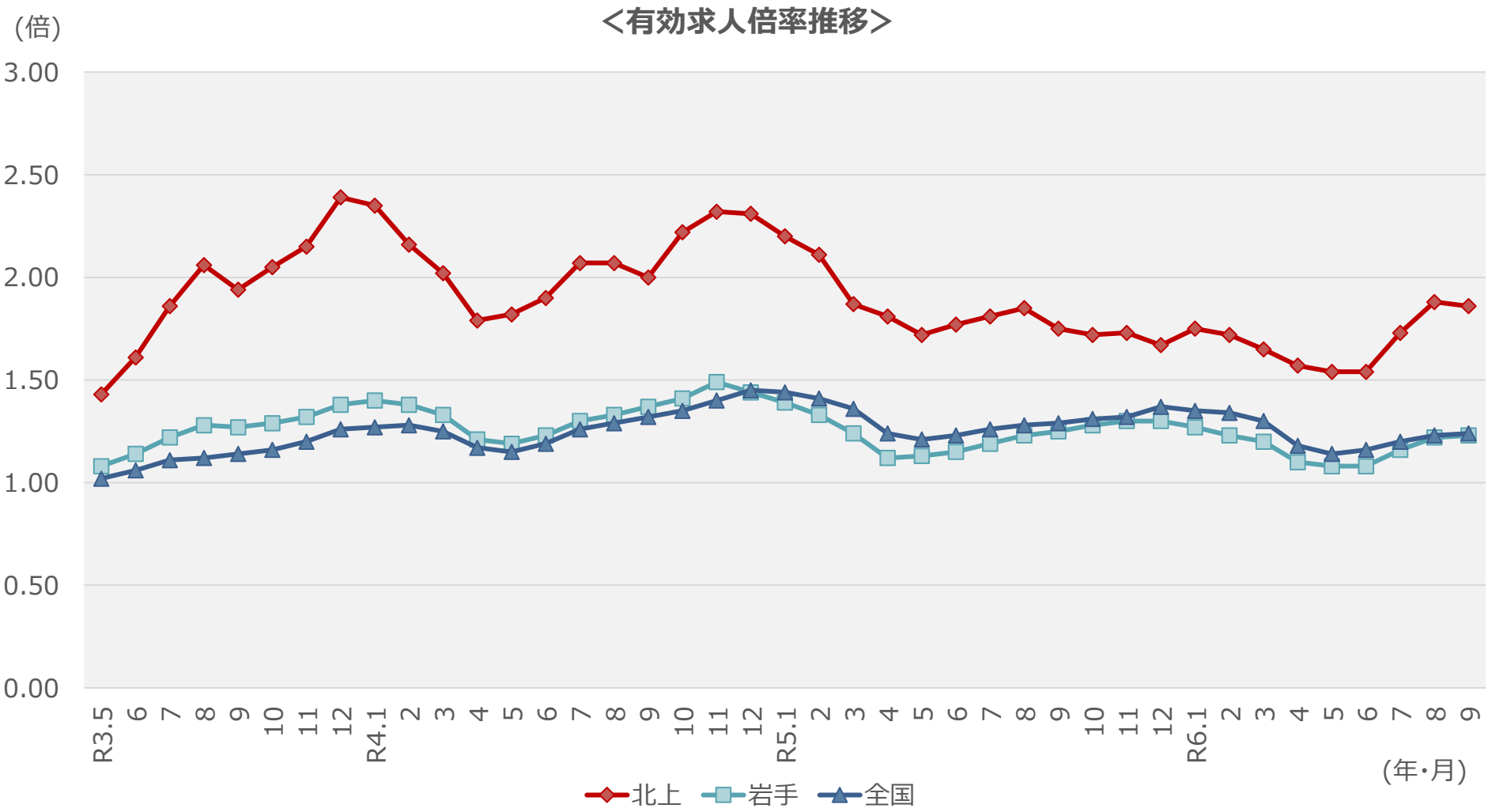
北上市が、経営者層や事業所等を対象にした調査を実施し、大学設置の必要性と方向性、経費や経済効果の試算を行い、大学設置の可能性を評価した。また、地域の意見を聞く場として北上市大学等設置検討会議を開催（令和4年12月20日、令和5年3月1日）。大学設置によるまちの活性化や、電気・電子工学、情報などの学部設置、他大学との差別化を図るべきとの内容が確認された。

5. 北上市大学設置基本調査（令和5年度）

北上市は、令和4年度までの調査・研究を踏まえ、理工系人材の確保・育成を目的とする新しい大学の設置に向けて必要な事項を調査し、北上市における大学設置可否を判断するための基礎資料を取りまとめたもの。当該調査では、岩手県内の高等学校に在籍する高校2年生とその保護者、並びに岩手県内の高等学校の進路指導担当教員に対して北上市への大学設置に関するアンケート調査を行ったほか、北上市への大学設置に関する有識者懇談会（令和6年2月5日）、北上地域の高等学校との大学設置に関する意見交換会（令和6年3月19日）を開催している。

3-1. いま大学を考え始めたきっかけ

人材不足　失われる活気　若年層の流出



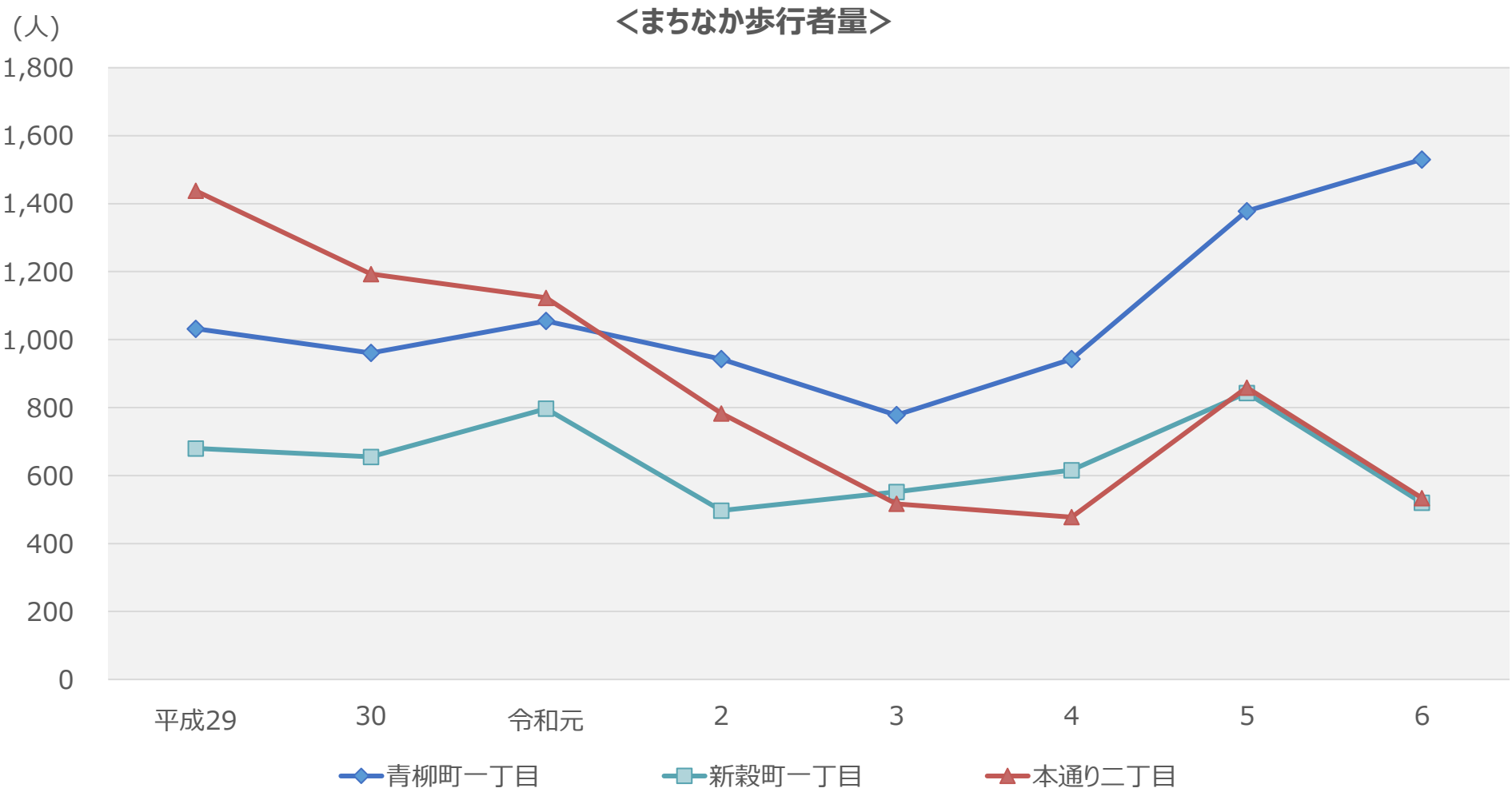
出典：厚生労働省「一般職業紹介状況」、厚生労働省岩手労働局「一般職業紹介状況」

3-2. いま大学を考え始めたきっかけ

人材不足

失われる活気

若年層の流出



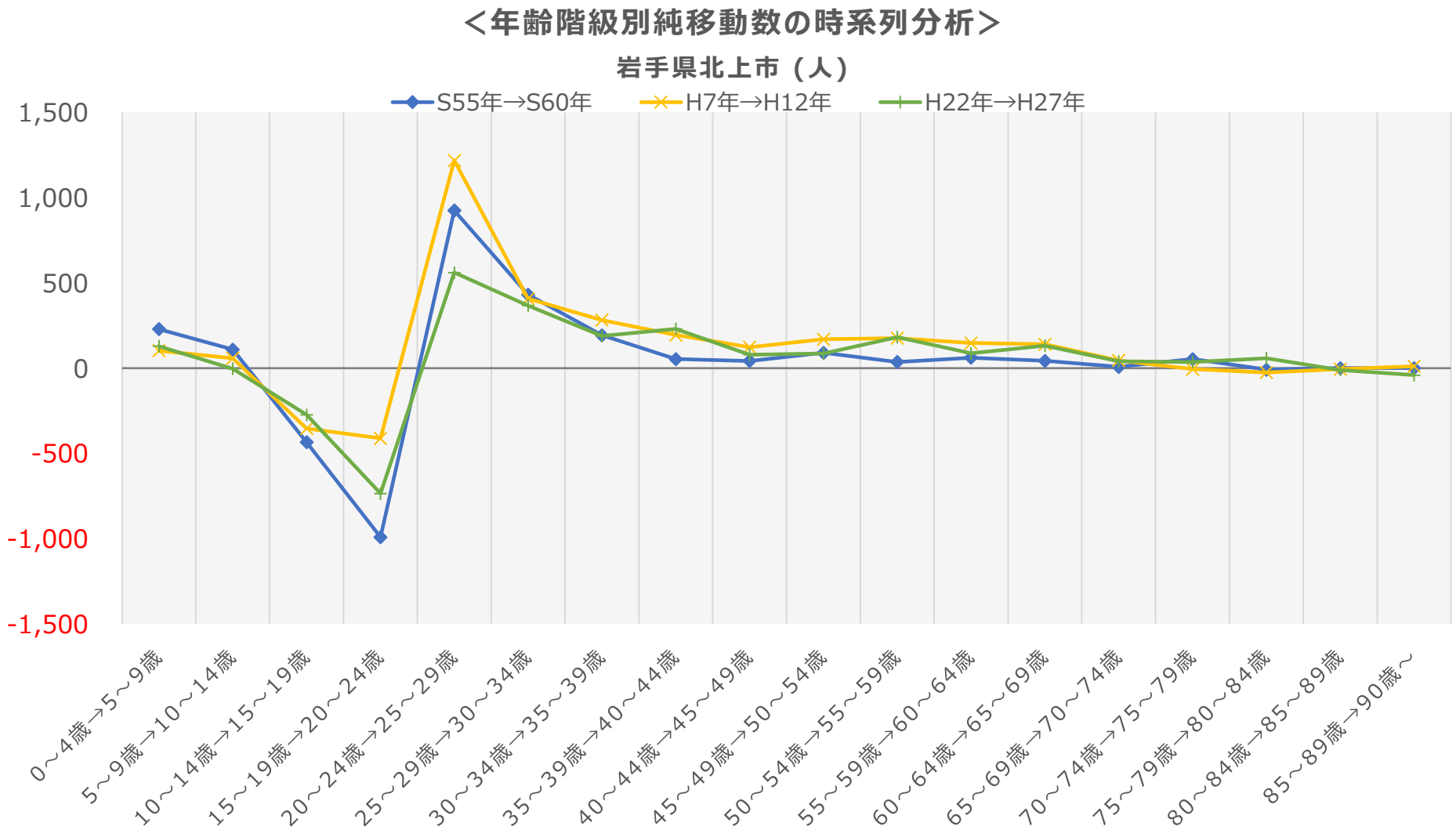
出典：北上市「交通量調査」

3-3. いま大学を考え始めたきっかけ

人材不足

失われる活気

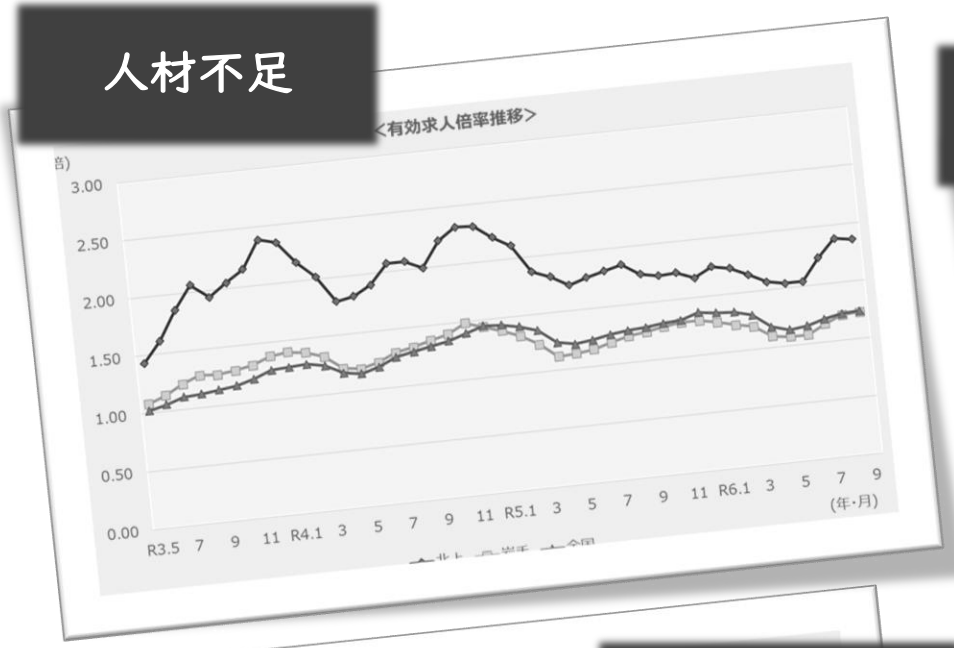
若年層の流出



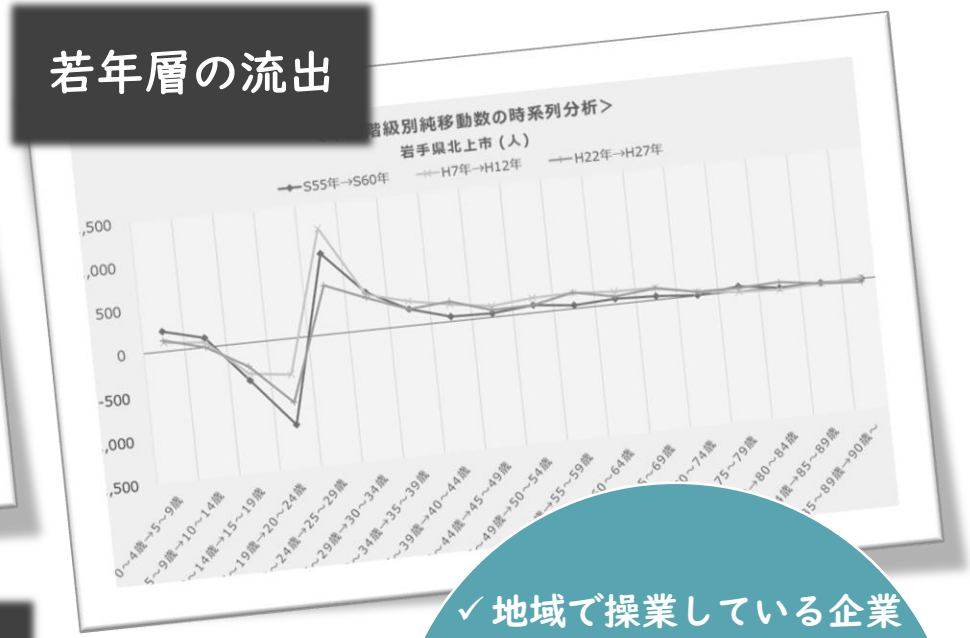
出典：RESAS、総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

3-4. いま大学を考え始めたきっかけ

人材不足



若年層の流出



失われる活気

- ✓ 地域で操業している企業等へ人材輩出
- ✓ 新たな進学の選択肢を創出することによる18歳人口の流出を抑制
- ✓ 学生や教職員、関係者が公私でまちを歩くことによるにぎわいの創出

▸▸ まちづくりの課題を解消する手段として期待できる

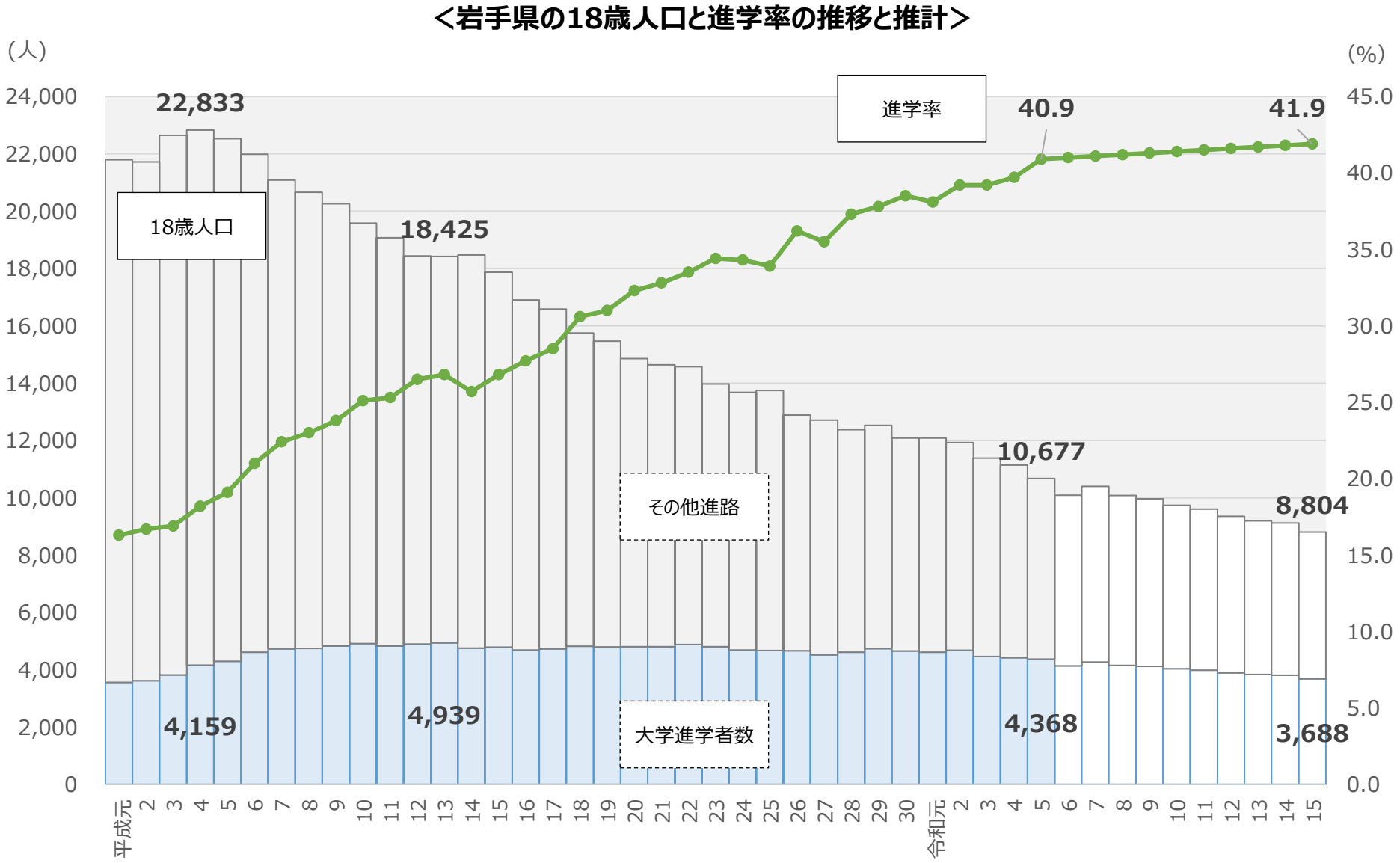
▸▸ 地域の成長を促すエンジンとして効果は多方面に波及する

▸▸ 「ひとづくり」と「まちづくり」が両輪となった「価値づくり」

4-1. 高校生の状況

出典：文部科学省「学校基本調査」、第137回中央教育審議会「参考資料集」

➢ 岩手県の18歳人口と進学率



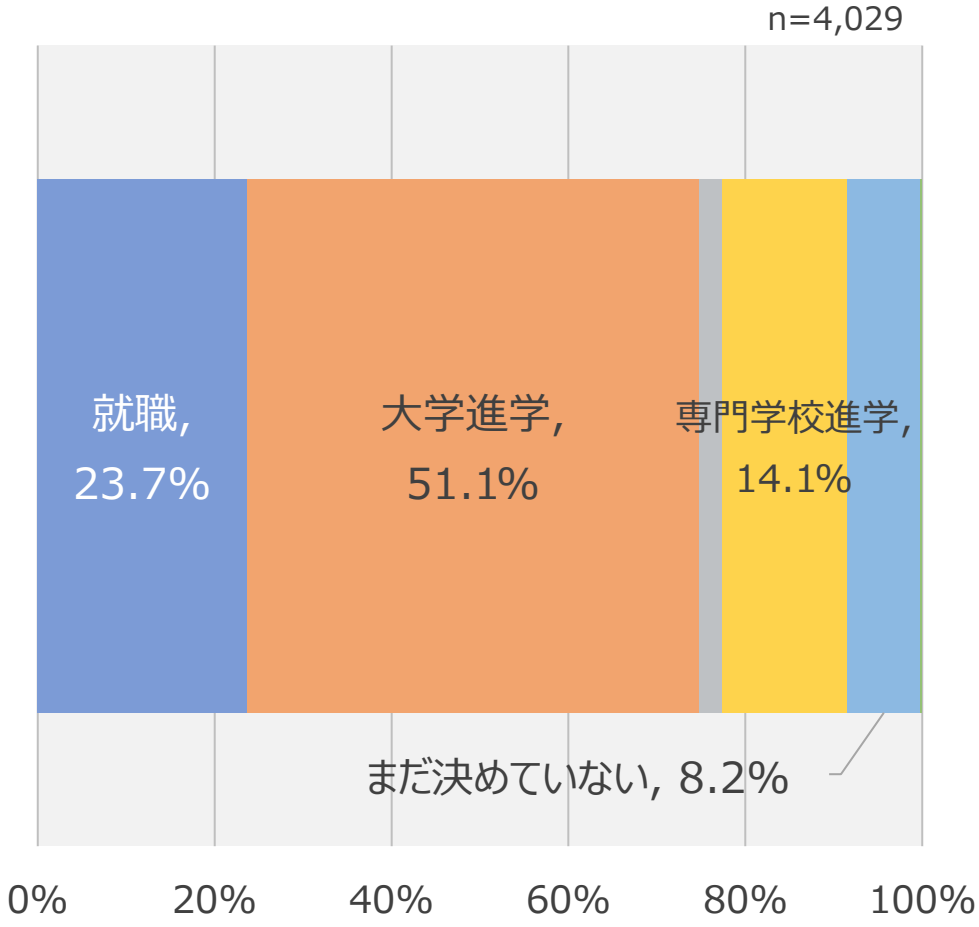
4-1. 高校生の状況

出典：北上市「北上市大学設置基本調査」(R5年度)

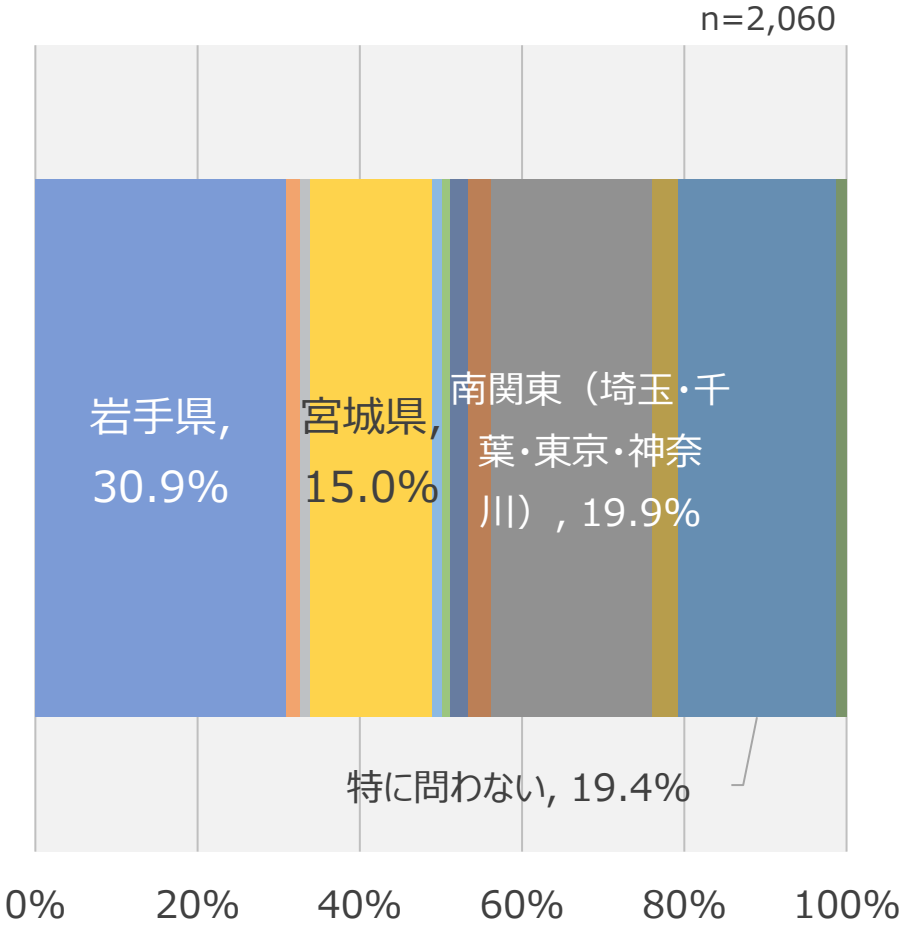
➢ 北上市への大学設置に関するアンケート調査結果

県内の高校２年生及びその保護者の皆様(各9,922人)、高校の先生(89人)を対象にアンケート調査を行いました。回答数は、高校生4,029人(40.6%)、保護者999人(10.1%)、先生66人(74.2%)でした。

＜高校卒業後の希望進路＞



＜卒業後、就職や進学を最も希望する地域＞

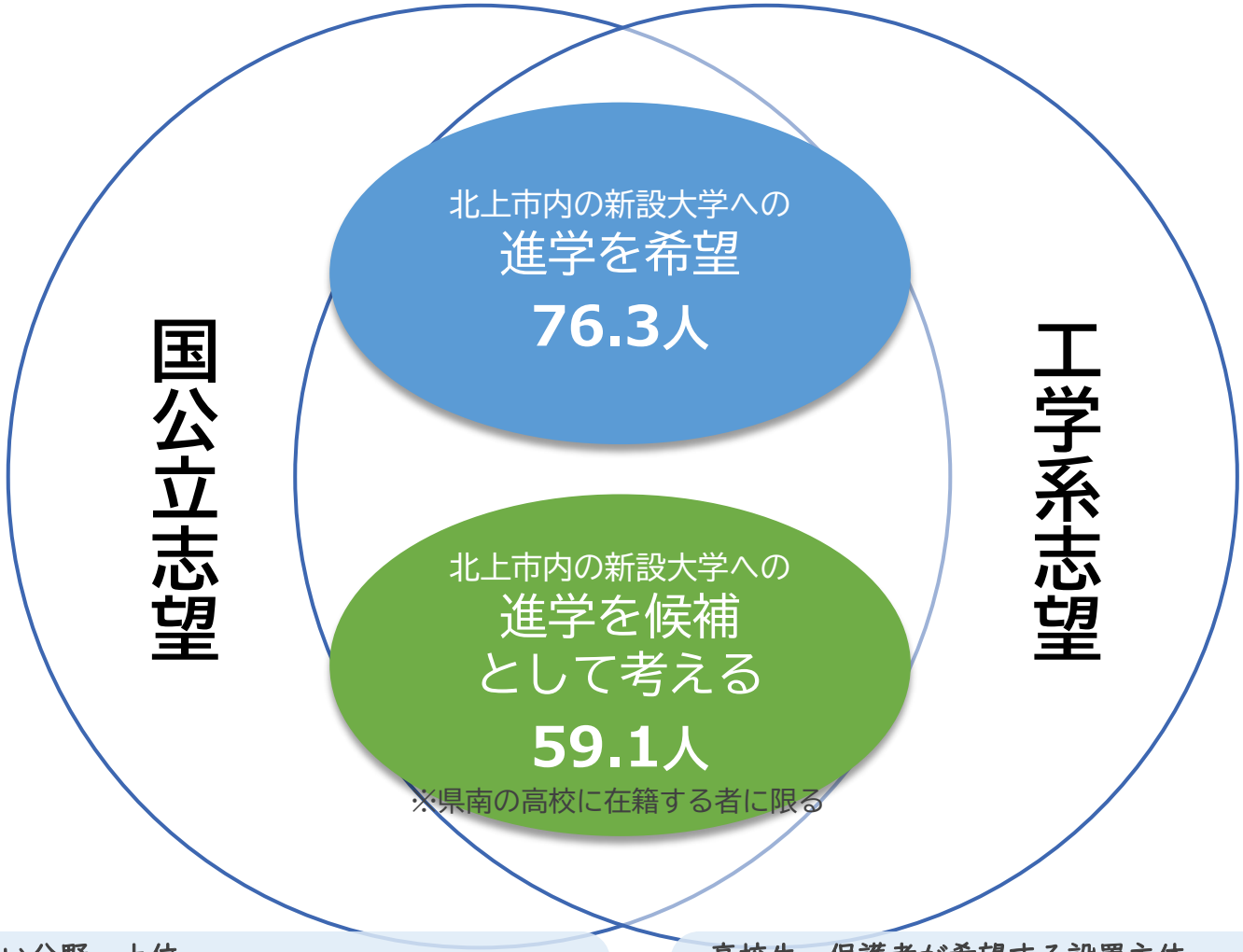


4-1. 高校生の状況

出典：北上市「北上市大学設置基本調査」(R5年度)

➢ 北上市への大学設置に関するアンケート調査結果

＜学生確保の推定＞



高校生が進学したい分野　上位

1位　工学(18.8%)　2位　人文学(18.1%)

3位　商,経済,経営(16.1%)　4位　教育学など(15.4%)　5位　理学(14.0%)

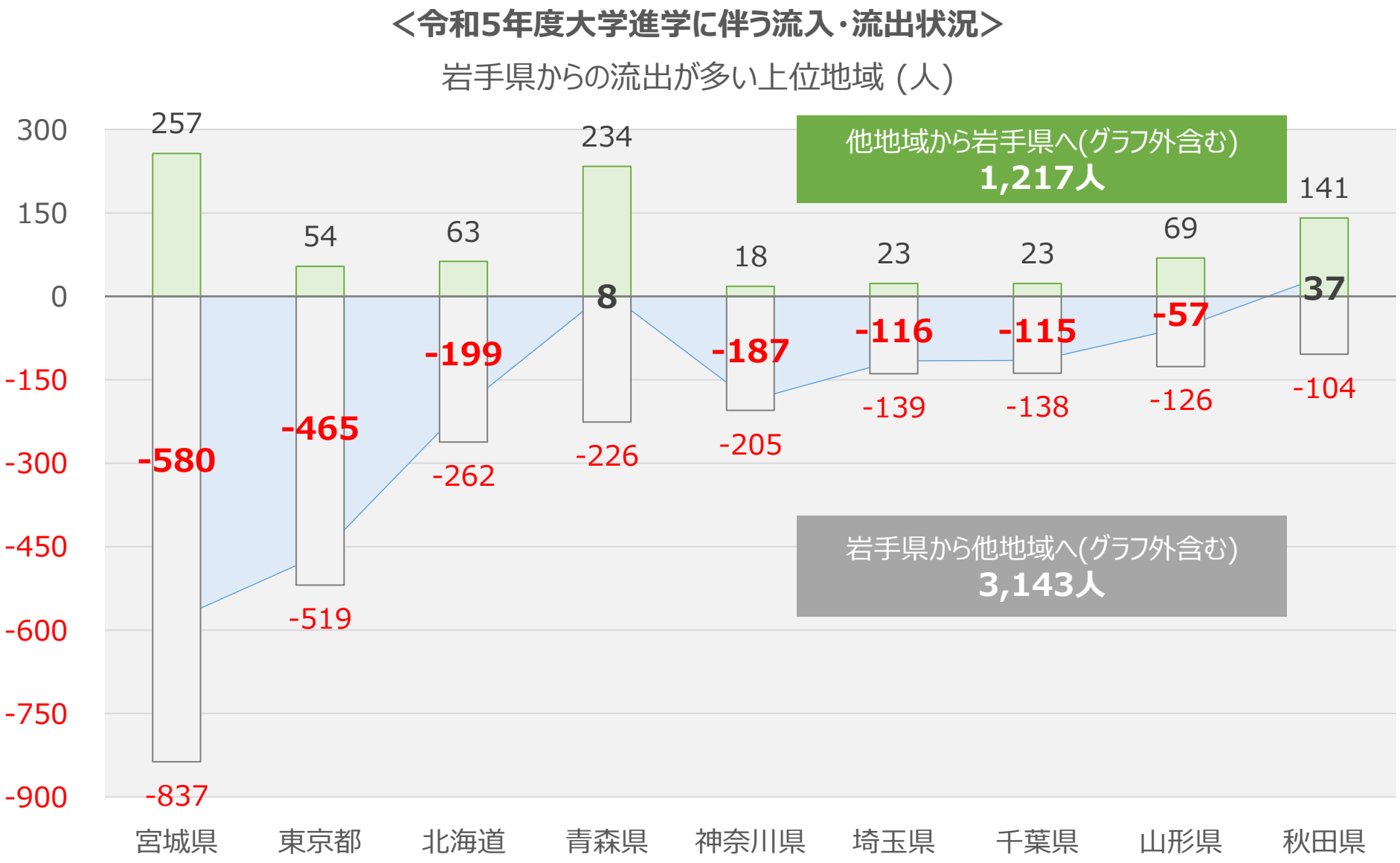
高校生・保護者が希望する設置主体

1位　国公立(76.0%)

2位　特に問わない(16.6%)　3位　私立(7.4%)

4-2. 大学進学先

出典：文部科学省「学校基本調査」



4-3. 社会の状況や意識

出典：北上市「大学設置に関する経営者層デマンド調査」（R4年度）

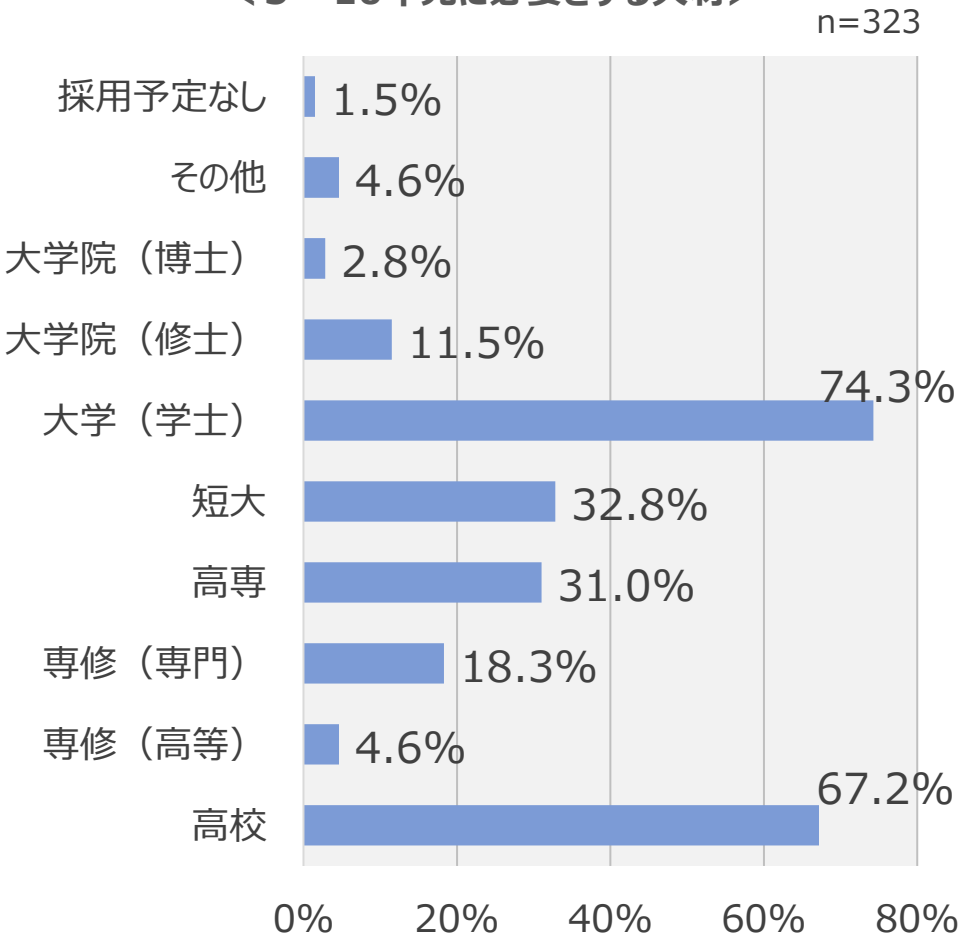
➢ 企業の採用状況及び大卒人材に関するデマンド

県南の企業1,000社を対象にアンケート調査を行いました。
回答数は、323社（32.3%）でした。

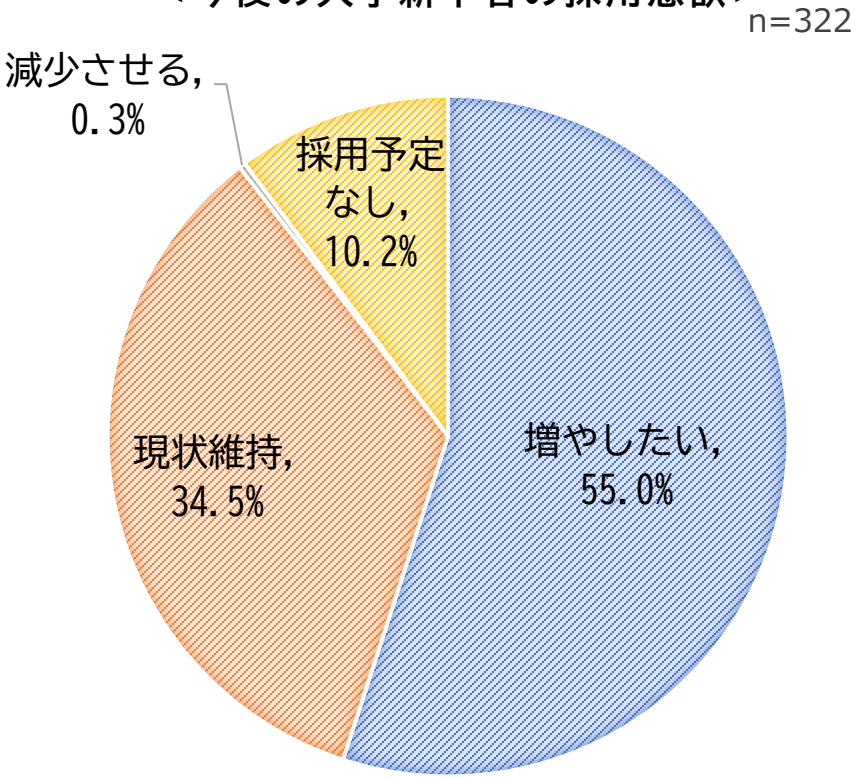
企業が採用したい人材の専門分野　上位

1位　機械(33.1%)
2位　情報(30.3%)
3位　社会科学関係(30.0%)
4位　電気・電子(29.4%)
5位　土木・建築(21.7%)

＜5～10年先に必要とする人材＞



＜今後の大学新卒者の採用意欲＞



▸▸ **社会の人材需要と高校生の進学意識は同じ方向であることが確認できます。**

4-4. 収入・支出の試算

出典：北上市「北上市大学設置基本調査」

開学まで［校舎整備等］

（定員80～120人想定）

約**82**～**99**億円

◀ 支出 ▶

国からの交付金
などを活用

◀ 収入 ▶

（参考）

大学・高専機能強化支援事業	最大20億円
デジタル田園都市国家構想交付金	最大５億円
都市構造再編集中支援事業	最大10億円

開学後［運営］

（定員120人想定）

約**9**億円/年

約**10**億円/年

（内訳）

学費収入	約３億円/年
国からの交付税	約７億円/年

5-1. 現在想定している大学の学部系統・規模・設置形態

学部系統

工学系１学部

- 高校生の進学希望者が最も多い分野は工学（18.8%/n=2,060/複数回答）であった。
- 社会からは広い知見を持つ人材やデジタル人材が求められている。
  専門分野としては、機械工学、電気・電子工学、情報工学など。
- 国は理工系分野をはじめとする成長分野をけん引する人材の育成を強化しており、工学系大学は国の政策動向と合致している。

学生規模

80～120人/学年

- 高校生向けアンケート結果から、県内から76.3人～135.4人の生徒が、新設大学に進学すると想定される。
- 理工系を学ぶことができる県内大学（学部）の県内出身者割合は、５～６割。新設大学も同様に県外からの入学者が見込まれる。
- 入学定員が80人以上であれば、市財政への影響を最小限に大学経営ができると見込まれる。

設置形態

市立大学

- 地域課題の解決や学生確保、安定運営の観点から、設置形態は市立大学が望ましい。
- 高校生が進学先を決める際に、特に希望する設置主体は、「国公立」（76.0%/n=2,060/単一回答）であった。
- 保護者の意識としても、子どもの進学先を決める際に、特に希望する設置主体は「国公立」（77.8%/n=620/単一回答）であった。
- 奨学金などいろいろ計算をしたうえで、それでも自宅から通える範囲しか選べない生徒もいる。

6-1．大学の設置場所

大学の
キャンパス
といえば？

- ○ 広い敷地
- ○ 豊かな自然
- ○ 学部別・機能別の複数建物

――みなさんはどんなイメージをお持ちですか？

写真：岩手県立大学滝沢キャンパス
出典：岩手県立大学HP

6-2. 大学の設置場所（まちなかキャンパスの事例）

写真：東北学院大学五橋キャンパスシュネーダー記念館
出典：東北学院大学HP

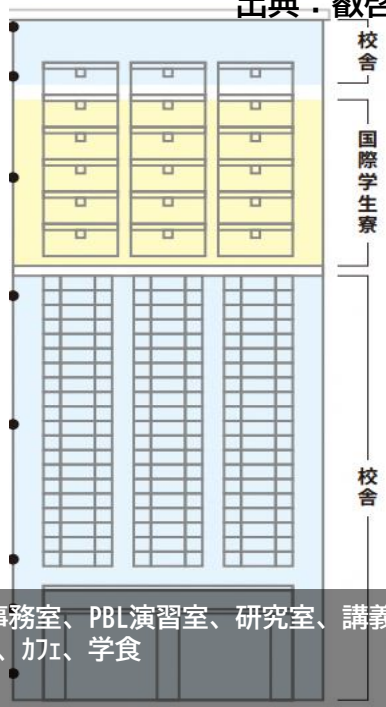
同じ敷地にある建物・機能
① シュネーダー記念館(ｶﾌｪ、図書館、事務室、実験室、研究室etc.)
② 押川記念館(学食、押川記念ﾎｰﾙ、宗教ｾﾝﾀｰ、宗教音楽研究所etc.)
③ 講義棟(ｺﾝﾋﾞﾆ、ﾌﾞｯｸｾﾝﾀｰ、事務室、講義室、情報処理ｾﾝﾀｰetc.)
④ 研究棟(理数基礎教育ｾﾝﾀｰ、実験自習室、研究室)

写真：福島県立医科大学福島駅前キャンパス(保健科学部)
出典：福島県HP

機能：多目的ﾎｰﾙ、図書室、講義室、実習室、教員研究室、事務室etc.

写真：叡啓大学
出典：叡啓大学HP

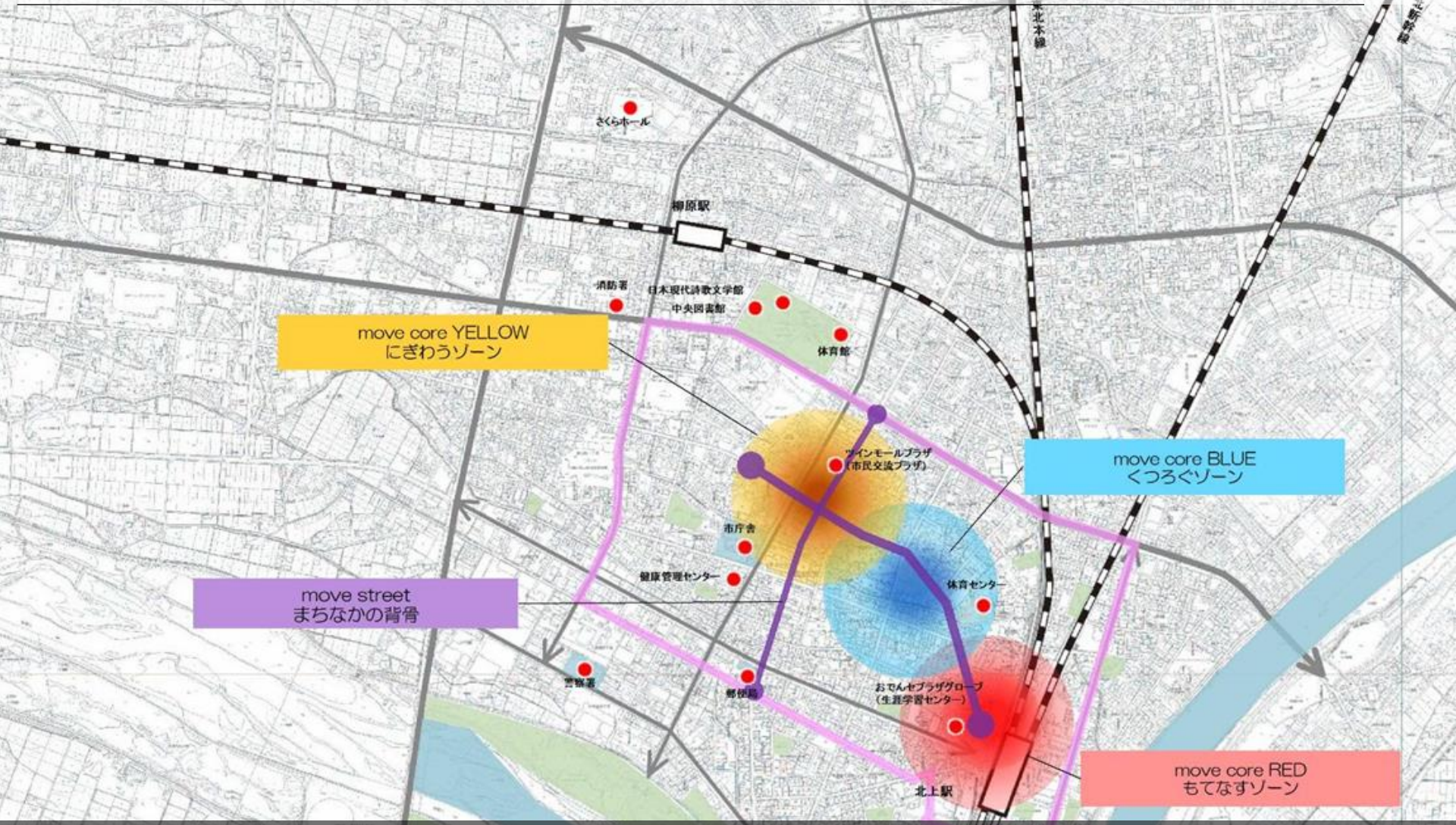
図：叡啓大学校舎フロアマップ
出典：叡啓大学HP



機能：ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾜｰｸｽﾍﾟｰｽ、図書室、事務室、PBL演習室、研究室、講義室、研究室、国際学生寮、英語ﾗｳﾝｼﾞ、ｶﾌｪ、学食

6-3. 大学の設置場所

出典:北上市「北上市拠点形成プロジェクト/未来ビジョン（地区再生計画）」(R3年度)



現在考えているキャンパスの場所 ➡ 市街地再開発エリア

○　まちなか
○　通学・通勤のアクセス良好
○　建物はヨコでなくタテ（棟数は多くしない）

※高校生が通いたいと思うキャンパスのイメージ
「まちなかのキャンパス」43.8%
「郊外のキャンパス」　10.3%
「特に問わない」　45.6%
「その他」　0.3%　（n=2,060/単一回答）

7-1. 大学があるまち　大学の使命

教育基本法

第七条　大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

２　大学については、自主性、自律性その他の大学における教育及び研究の特性が尊重されなければならない。

学校教育法

第八十三条　大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

２　大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

7-2. 大学があるまち　学生がいるまち

7-3. 大学があるまち

人材不足

- 高度人材の育成
  - ○人材確保や産学連携の機会
- リスキリング生涯学習
  - ○学生以外の学びも
- 社会変革への対応
  - ○近くで相談に乗れる研究機関がある
- 経済活性化
  - ○経済波及効果は建設から10年間で約130億円以上と試算

失われる活気

- にぎわい
  - ○学生が歩くまちに
- 新サービスの可能性
  - ○新たな消費・購買層が登場
- 施設開放
  - ○オープンスペースのほか、図書館など
- 交流・関係人口増加
  - ○課外活動などでの地域行事への参加

若年層の流出

- 進学選択肢増加
  - ○高校生に新しい選択肢を提示
- 人口流出抑制
  - ○県内進学希望者の受け皿
- 人口流入
  - ○学術都市という新たな側面
- 地元就職定住
  - ○地域に目を向ける機会が増える